

～道徳の時間をがんばろう～

平成23年11月21日発行

学級経営の基盤となる「道徳教育」

学校における道徳教育の意義は、

- 「(1) 人間としてよりよく生きる一人格の基盤としての道徳性の育成—
- (2) 豊かなかかわりと人間としての在り方や生き方の自覚
- (3) 小学校ではよりよく生きる基盤となる道徳性を育成する」

【小学校学習指導要領解説 道徳編 P15】

道徳の時間の目標は、

「道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成する」

【小学校学習指導要領解説 道徳編 P29】

「道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成する」です。 【中学校学習指導要領解説 道徳編 P30】



「道徳の時間」をがんばると、さらにこんな学級になります。

1 自分の考えをもち、発表できる子ども・学級に成長します。

「道徳の時間」は、一つの答えをもとめるのではなく、多様な意見をもとに考え、ねらいへと迫っていくものです。

教科の授業ではなかなか発表できない子どもも、発表する機会を与え、発表したことを認め、称賛すると、発表できるようになります。

そのためには、

- ① 多様な考えが出せるような発問を工夫する。
- ② 考える時間を与える。
 - 小グループでの話し合いを取り入れ、自分の考えをもたせる。
 - 自分の考えを書かせる。等の活動を入れる方法もあります。
- ③ 「わかりません」は、認めない。
 - 「じゃあ、考える時間をあげるから、考えておいてね。」
 - と言い、他の子どもの意見を聞く。少し時間をおいて、もう一度指名する。
 - 粘り強く指導することで、考えが言えるようになります。
- ④ 「同じです」という答え方をさせない。
 - 「同じでも、自分の言葉で言ってみよう。」と、発表させる。



2 友だちの意見を聞き、そこから考える子ども・学級に成長する。

道徳の時間の話し合いでは、友だちの意見を聞き、そこから考えることが大切です。

先生と子どもとの、一対一のピンポン型のやりとりでなく、子ども同士の考えからさらに考えさせるバレーボール型の話し合いを目指しましょう。



そのためには、

- ① 友だちが発表している時には、発表者の顔を見て聞くよう指導する。
→机を「コの字型」にして、みんなの顔が見えるようにする。
- ② 「今のAさんの意見を聞いてどう思いますか？」と横振りの発問をする。
- ③ 「Bさんの意見に似ているのですが、（反対なのですが）・・・。」
「Cさんの意見を聞いて考えたのですが、・・・。」
「Dさんの意見を聞いて、さっきの考えと変わったのですが、・・・。」
というような発表の仕方を奨励する。



3 自他を認め、思いやりのある子ども・学級に成長する。

子どもたちが、自分の考えをもって発表できるようになり、友だちの意見を聞いてさらに考える話し合いを続けていくと、自他を認め、思いやりのある子ども・学級に成長します。

教科の授業でも、間違いを恐れず発表できるようになり、授業が活発になるのです。普段の生活や学校行事等でも、友だちを認め、高め合える学級になります。



さらに、道徳の時間の指導について学びたい先生は、こちらをご覧ください！

道徳授業研究会での「指導案」「授業の様子」「分科会での意見」「指導講評」を紹介しています。 ※リンクしています。クリックするとページにジャンプします。

[平成23年度 東部地区道徳授業研修会](#)

加須市立北川辺中学校 行田市立桜ヶ丘小学校 羽生市立新郷第二小学校

[平成23年度 東部地区道徳教育研究協議会](#)

幸手市立さくら小学校 幸手市立西中学校

